

J H F 理事会議事録

日 時： 2013年11月19日(火) 14:00～17:00

場 所： J H F 事務局会議室（北区中里1-1-1-301）

1. 議長・議事録作成人指名

議長： 大沢 豊 議事録署名人：出席理事監事全員

2. 定足数確認

出席者：出席【理事】 芦川雄一郎 内田孝也 大沢 豊 鹿山 登 工藤修二
塩坂邦雄 殿塚裕紀 福永信也 安田英二郎

【監事】 市川 孝（スカイプ） 岩村浩秀

（出席理事9名。今理事会は定足数を満たし成立した）

3. 理事・監事のひとこと

内田会長：9月20日に航空協会100周年行事がありました。9月はパラグライダー日本選手権、アキュラシー日本選手権があり表彰式に行って来ました。アキュラシーには航空協会の航空スポーツ室長にも来ていただきました。10月は安全性委員会、教員スクール事業委員会の合同会議があり、来春の教員検定員研修検定会を中心に会議しました。他、フォトコンテストの審査員の方に応募された写真からカレンダー用を選んでもらいました。補助動力委員会も開催されテキストを進めています。11月には航空協会のLSA勉強会、そして航空協会の亀齢賞を受賞された阿部先生を囲む座談会を行いました。

殿塚理事：茨城空港でイベントがあり連携してパラグライダー体験会を計画しています。

安田副会長：最近やったことはパラシュートをリパックしました。

福永理事：スカイプ臨時理事会があり、今回もスカイプ参加の方がいますが、誰がしゃべっているか分かる状態を规则的に決めた方がよいと思います。補助動力委員会に参加しました。所属しているエリアで死亡事故が起きてしまい安全面で掘り下げていけないと感じました。

塩坂理事：10月16～17日に東伊豆すすき祭で、パラの草大会があり120名の参加でした。12月14日はダイラボウでXアスロンを行います。

大沢理事：8月にハング日本選手権がありデイクオリティ1で、今迄私が競技委員長をやった中では最高の大会でした。パラの日本選手権、足尾の大会もケガもなく無事に成立しました。ハング教本の準備委員会を12月に1度集まる計画です。

市川監事：今回はスカイプで参加です。これは楽だと思います。

4. 審議事項

審議事項4-1 ハング安全講習会について

内田会長：九州でのハング安全講習会については文書理事会で承認されました。トーイングマシンを使う坂本さんをお願いしているので補助動力委員会からの発案による安全講習会の要望書です。予算が必要になりますので2回目以降はどうしていくかご検討をお願いします。

議長（大沢理事）：予算としての審議なのですか？

内田会長：開催をどうするか、どのような規模、予算、スタイルにするか審議の必要があります。セイフトーを始めたのが坂本さんですが、講習が出来る事業者は他にもいます。坂本さんの開催にJHFの組織が乗っかる形になるのはどうでしょうか。

工藤副会長：この指導をうまくできるのは彼しかいないと思いますので、坂本さんをお願いします。

芦川理事：スクールでは町田さんも鈴木さんもやっています。

議長（大沢理事）：実際に利益が出るものを頼むのではないのでよいと思いますが。実際は坂本さんの所へ行って教えてもらっていますから。

安田副会長：安全性が一番高いですし、一番長くやっていて事故がないのですから。

議長（大沢理事）：なるべく早い時期に関東でやって欲しいことと、東北でも開催してもらいたいです。反対がないようでしたらこの事業を継続して行ってもらいましょう。

塩坂理事：公益社団なので会計計算で、理由を明確にすれば随意契約でよいと思います。

安田副会長：どの位の必要性、需要、何が役に立つか様子を見ればよいと思います。東北も入れるのであればあと4回、予算規模と交通費と日当でよいと思います。

内田会長：今後も坂本さんを委託先で決めるのですか？

安田副会長：あと数回は坂本さんをお願いしようということでもよいと思います。

内田会長：開催場所も含めて今回は伊尾木さんが窓口です。今後は理事会が直接話をするのか、JHFのどの事業でやっていくのか。

議長（大沢理事）：安全性委員会が一番適していると思います。

芦川理事：ハングパラ振興委員会でもいいのかなとは思っています。フライヤーのスキルアップでもありますが体験会でも安全にというシステムでもあるので、1日はフライヤーのため、もう1日はイベントとして開催してもよいと思います。

内田会長：今後はどの地域の行政と仕切って、誰が募集活動をするかとなります。

議長（大沢理事）：今回は実績があったので、新しい所でやるのであれば自由に使える場所の確保、準備もあるので、担当委員会が面倒を見てもらわないといけないと思います。

内田会長：正会員に投げ掛けるやり方もありますが、安全性委員会のハング部門をお願いしたらいかがでしょうか。

安田副会長：企画段階で参加費は揉めていましたね。

議長（大沢理事）：JHFがやるのにお金は取れないので、スタッフのお弁当代位になればよいかなと思います。

殿塚理事：問題があるようだったら出してもらえばいいと思います。

芦川理事：アンケートを取ってもらい報告も必要だと思います。

安田副会長：関東でやるのであればいつ頃にできそうですか？

議長（大沢理事）：多摩川の河川敷はどうですか？

内田会長：多摩川での開催は申請や制限等色々あり難しいです。どこまで具体的に理事会で決めるのですか。

殿塚理事：どこが主体でやるか、県連が主体の方がいいと思います。

内田会長：JHF側としては安全性委員会にある程度自由にやってということで、理事会の意思を決めればそこから先は県連依頼等も決めてもらえます。東北についても要望すればいいと思います。

福永理事：候補地を広げるといふか、継続していくことを応援出来る体制があればいいと思います。データとしてJHFは把握したいです。

安田副会長：報告書と参加者名簿と参加者アンケートをもらいましょう。

内田会長：この事業をすすめる中では40万円と考えています。それを超える場合は理事会に再度出します。費目としては安全性委員会等にします。

議長（大沢理事）：では、ハングの安全講習会について、安全性委員会を中心に予算40万円を限度として今年度内は開催していくことで賛否を取ります。

採決の結果、【賛成8 反対0 棄権0】で可決された。

賛成： 芦川、内田、鹿山、工藤、塩坂、殿塚、福永、安田

審議事項4-2 モーターパラ苦情処理における正会員との連携について

福永理事：モーターパラに関する苦情処理について、事務局に届く苦情については、補助動力委員会へ連絡をして委員会が対応していました。今後は正会員にも連絡をして、各地のフライヤーの把握等にも協力をしてもらう方向で依頼することの承認をお願いします。

安田副会長：フライヤーの把握について協力してもらうということですか。どこにも属していない人を把握しようということですね。

内田会長：本来は補助動力委員会ですて欲しいと言ったのですが、協議事項もそれに関連していますので、こちらでは正会員への協力をとということによいと思います。

芦川理事：機材を購入した所で管理すればよいのではないですか。

内田会長：シリアル番号さえ消してしまいます。理事会としては正会員をどのように巻き込むか。

安田副会長：地元のことは分からないので、正会員に補助動力担当を決めてもらってフライヤーの把握に努めてもらえばよいと思います。

殿塚理事：JHFとして根本的に関係ないと思います。問題意識を共有してその先はそこから考えるというこ

とですね。

議長（大沢理事）：では正会員に協力をお願いするということで決を取ります。

安田副会長：各地のフライヤーの把握、モーターで飛んでいる人と連絡を取れるようにして欲しいということですね。

殿塚理事：可能性として都市部で事故があった場合、モーターもパラも一緒に申請を出せとなりかねないという危機感がありますので、それを共有する為にも正会員にこういう苦情があるし、苦情が続くと規制の可能性があるので気をつけましょうというネットワークは必要だと思います。

内田会長：正会員をお願いする2つの事項について、どうお願いするか依頼文書を誰か担当で作ってください。

議長（大沢理事）：では、福永さんと殿塚さんとで正会員宛の苦情処理における連携の文案を作ってもらい配信するという決をお願いします。

採決の結果、【賛成8 反対0 棄権0】で可決された。

賛成： 芦川、内田、鹿山、工藤、塩坂、殿塚、福永、安田

5. 協議事項

5-1 補助動力委員会傘下での全国現地調査派遣組織の設置検討について

内田会長からモーターパラの現状を調査する為の組織を置いたらどうかと提案がありました。

大沢理事：モーター販売と連絡を取って協力をお願いした方が良いと思います。

鹿山理事：パトロールとか連盟から行って直接指導は難しいので県連の協力を得ないと。

内田会長：県とは別格で考えないといけないと思います。

福永理事：モーターもどこでも飛べる訳ではないのである程度は把握できます。

殿塚理事：飛んでいる場所の近くの住民に用紙を渡して、勝手に飛ぶ人がいて困っているから情報をもらうようにしたら抑止にならないでしょうか。

大沢理事：苦情が来た時点でその地域を重点的に把握した方が早いと思います。

安田副会長：審議事項で正会員による把握をした後だと思います。情報を得てどう対処するかですね。

内田会長：相手に緊張感を与えたいのです。

安田副会長：緊張感を与えるだけなのに高い交通費を掛けるのはどうでしょうか。JHFレポートにアンケートを入れるとかはどうでしょう。

… 引き続き検討課題となりました。

5-2 JHF理事会の今後の目標について

内田会長：JHFは収益事業とかをしてはいけない範疇にいます。去年までのハングパラ振興委員会やハング安全講習会等、スポーツ全体の活性化に対して積極的に動くべきという行動、欲求がありました。どこまで積極的にやるべきか、踏み込んではいけないということも共有化することも必要と思っています。業界活動、営利活動にどこまで踏み込むかという視点でもう少し考えてもらい次回の理事会で整理することも必要かと思っています。

安田副会長：一番まずいのは理事や委員に利益が流れることです。何に関しても相見積もりにする等をしてやっていくべきです。

大沢理事：JHFの未消化予算が多かったのはそれが前面に出ているからですね。

内田会長：緊縮財政の時には手弁当で活動をしていましたので。

大沢理事：その認識も変えないと教本作り等に協力をしてくれる人もいません。

安田副会長：普及と安全に必要なことはどんどんやった方がいいと思います。

内田会長：お金で出来ることは出しましょう。昨年、木崎湖から所有権をJHFで買えないかと話が出ました。エリアを作ってくれという話もあります。法的には持てるのですが、内閣府に対する事業申請も変えなければなりません。保守本流のままであれば検討も始まりません。

安田副会長：マヌーバが出来る唯一のエリアなのでそれもありでは。

大沢理事：今のJHFは仕事が多過ぎますので更に増やすよりも、減らしたいとも思います。

芦川理事：公益社団法人日本バスケット協会のように下部組織を作れば良いと思います。入って来る機材はそこで管理すればよいことです。

内田会長：それはお金をどこで管理するかです。組織を分けることはできますが、法律的には一体と考えられると思いますが。

大沢理事：今後も継続協議していきましょう。

6 報告事項について 下記それぞれ以下のとおり報告された。

6-1 予算実績表

6-2 フライヤー会員登録・技能証発行実績

この議事録が事実と相違ないことを確認し記名押印する。(出席理事)

理事

芦川雄一郎 印

内田孝也 印

大沢 豊 印

鹿山 登 印

工藤修二 印

塩坂邦雄 印

殿塚裕紀 印

福永信也 印

安田英二郎 印

監事

市川 孝 印

岩村浩秀 印

議事録作成人：桜井加代子